

# 法華寺だより



## 春の彼岸会法要

### 合掌し、ご先祖に感謝

北国にも春の便りが届く季節となりました。春分の日をはさんだ前後七日間は春のお彼岸です。日頃何かと慌ただしい生活です。ちよつと立ち止まり、心を見つめ直し、自分たちの行いを見つめ直す大切な仏道修行の七日間がお彼岸なのです。お釈迦様は、「いつも雑踏の中に身を置いて

いたのでは、正しい考えや判断・決断は出来ない。静かな所に身を落ち着けると、心が落ち着き、適切な判断が生まれます」とおっしゃっているそうです。私たちのいのちは、ご先祖から連綿と受け継がれ、現在此処にあるのです。日々変化する社会ですが、頂きたいのちに感謝して精一杯生きることに合掌しましょう

### □ 社会を育てる □

みんなのことを考えて行動する慈悲の心。  
幸せを分かち合う事を喜びとする布施の心。

### 合掌の「ころを

世界へ 未来へ

一つひとつの優しい心が、安穏な明るい社会をつくる大きな一歩となる。「正しい教えで安らかな国づくりを」(立正安国)という願

いを受け継いで社会のためになる活動に取り組みましょう。  
◎社会活動は身近なことから始めましょう。

「誰かのために」と想う心で、まずは地域に根ざした社会活動、通路の清掃活動やボランティア等に参加する等々。

※ 正法156より

## いざ挑戦 日蓮検定

【二級 その⑨】

僧侶の教育研究機関を「檀林」と呼びます。関東八檀林に該当しないのは、次のどれ

- 1 .. 飯高檀林 ⇩
- 2 .. 小西檀林 ⇩
- 3 .. 中村檀林 ⇩
- 4 .. 鶏冠井檀林 ⇩

### 前筆頭総代 佐野光男殿逝去

既に新聞報道等でご存じのようにご逝去されました(享年九十三歳)。謹んでお悔やみ申し上げます。

猶、葬儀は法華寺本堂で家族葬を営んだ後、二月十五日北海道ホテルにてお別れの会も執り行われました。

故人は、平成二四年には永年当山総代として尽くされた事により、日蓮宗一級法労章を授与されております。衷心よりご冥福をお祈りします。南無妙法蓮華經

- 1 .. 飯高檀林 ⇩ 千葉県匝差市にあり、立正大学に繋がる
- 2 .. 小西檀林 ⇩ 千葉県大網白里
- 3 .. 中村檀林 ⇩ 千葉県多古町 関東三大檀林とも
- 4 .. 鶏冠井檀林 ⇩ 京都府向日市 関西六檀林の一つ

## ご案内

三月  
十三日 婦人会総会  
二十一日 春の彼岸会法要

四月  
八日 釈尊降誕会  
十三日 行学会

心といのちの相談所  
老若男女幾つになっても悩みや心配事の絶えないもの  
.....ご来所やお電話を.....

今月の聖語

きょうしゅしやくそん  
教主釈尊の

しゅつせ ほんかい

出世の本懐は

ひと ふるまい

人の振舞いにて

そうろう

候けるぞ

【信仰者のあり方】

日頃の心掛けで大切なのは忍耐ともいわれます。

法華経では、忍辱を説きます。忍辱は自己の成長、成仏の糧として今を受け入れる心持ちです。唯堪えるだけで無く、前向きの気持ちで受け止め歩み始めることが大切です。

「崇徳天皇御書」より」

覚見 書

三日 節分会・星祭り

その後、土幌本光寺、

広尾広教寺、芽室実勝寺、

十三日 婦人会総会

二十七日 帯刑教誨



一 休 み

●「日蓮宗信行読本」より（拾い読み）  
●第五章 日蓮宗の勤行

2 おつとめの内容 (二)

(5) 運想 (うんそう)

「……お題目の功德を心に刻む……」  
一般に唱題の後に「唱え奉る妙法は、これ三世諸仏所証の境界、……大乘一実の境界に入らしめ、仏土を厳浄し、衆生を利益せん」と読誦されるのが「運想」。幕末の学僧『優陀邦日輝』上人が撰文されたものが今日まで誦み伝えられているそうです。その要点は  
一、お題目は全ての仏さまの悟りであり

「奉仕に感謝」

☆布施会様 本堂玄関の幕用紫房

☆布施会と婦人会様 法会の諸準備等々

☆相馬様ご夫妻 お地藏様のかさ等

※前号では別な方のお名前でした。そそっかしく  
て誠に相済みません。お地藏様も御立腹されていました。

法華経名句私撰

（信解口品第四）

（ころ あいたいしん

心、相對信して、

につしゅつ はばか

入出に難りなし

二、日蓮聖人がお釈迦様から付嘱されて、我等に与えられたもの

三、そのお題目は、宇宙第一の真理で

四、我々ばかりか、全ての生きとし生けるものが共に悟り、楽しむことが出来る

五、だから、このお題目を高らかに唱えれば  
三宝は喜び、全ての生物は幸福となる

お題目を唱えることは自分のためになるだけでなく、何処までも何処までも広がって幸福の種を蒔くことになるのです。

参照・引用

※日蓮聖人聖語カレンダー

※「日蓮検定」

※「日蓮宗信行読本」

※「法華経名句辞典」松本慈恵

※日蓮宗新聞 その他

松本慈恵師の解説参照

「長者窮子の喩え」の一節。

窮子は二十年間も長者から命じられた便所掃除を続けた。これにより、次第に長者との間に心が通じるようになり、家の出入りにも遠慮がなくなりました。  
※便所掃除は、人間の煩悩を意味しているとか

編集後記

◆私は朝食前に仏様に先ず挨拶を致します◆仏法僧と唱えながらおりんを三度鳴らし◆その後お題目を何度も唱えます。その後家族などの健康安全等を祈願致します◆体調が何となく優れない時は、お題目を唱える声に張りがないなと自分でも分かります◆最近はその多々有り、頑張らなくては  
♠山崎記 ♣

